

令和6年度 定時総会（第12回）開催 ・新会長に新谷明弘氏を選出!!

・令和6年6月6日(木) PM3:00～ 秋田キャッスルホテル「放光の間」 出席 68 名



（一社）秋田県経営者協会令和6年度定時総会「第12回」が、6月6日（木）秋田キャッスルホテルにおいて出席者236名（委任状出席者168名）で開催された。

定時総会は湊屋会長の開会挨拶の後、議案審議が行われ、令和5年度事業報告及び収支決算を承認、令和6年度事業計画（案）では重点事項として、①「セミナー・講演会の開催や各種情報提供を通じて、生産性向上などの課題に対する会員企業の取り組みを支援する」②「会員増強をはかるとともに、会員相互の交流を促進する」とすることが承認された。

「任期満了に伴う役員等の選任」では、理事15名、監事2名、幹事39名が選任され、総会后開催された理事会において新谷明弘氏（秋田銀行頭取）が会長に選出されたほか、副会長は5名体制となった。新たな役員等の任期は今年6月から令和8年6月の定時総会終了までの2年間となる。また、会長を退任した湊屋前会長は「顧問」に委嘱されることが承認された。

総会終了後に挨拶に立った新谷新会長は「先行き不透明な時代で各企業は様々な課題を抱えているが、他の経営者団体と連携を取りながら協会として役割を果たし、会員各位の協力を得て課題に対応したい。」と抱負を述べた。

この後の記念講演は、秋田労働局長の山本博之氏を講師に招き、「労働市場からみた秋田県の現在と将来」をテーマに講演いただいた。労働市場における秋田県の抱える様々な課題を解説したうえで働き手から選ばれる魅力ある企業への取り組みなどの対応策について述べられた。会員企業が身近に抱えている問題だけに関心度が高い講演となった。終了後は懇親会が開催され、会員同士が親睦を深めた和やかな時間となった。



湊屋会長の総会挨拶

本日は大変お忙しい中、秋田県経営者協会・定時総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。会員の皆さまには、日頃より当協会の運営に多大なご支援・ご配慮を賜り、心より御礼申し上げます。内閣府が先月公表した2024年1-3月期の実質国内GDP成長率（1次速報値）は年率で△2.0%と、2四半期ぶりのマイナス成長となりました。マイナス成長の主因は認証不正問題に伴って生じた自動車の大幅減産であり、個人消費や設備投資、輸出などに幅広く悪影響が及んだ結果とされています。ただし、国内の自動車生産体制は4月中におおむね正常化しており、4-6月期は大量の受注残解消のための挽回生産が見込まれるほか、この春の大幅な賃上げや、定額減税による家計の所得環境の改善などもあり、実質GDP成長率はプラスに転じるとの見方が大勢となっております。しかしながら、今週新たに大手5社の認証不正問題が発覚し、経済へのマイナス影響が懸念されるところであります。ご承知のとおり、アフターコロナの高水準な物価上昇局面において、価格転嫁の進捗状況が企業業績に大きな影響を与えております。「パートナーシップ構築宣言の拡充」や昨年11月の「労務費の適切な転嫁のための価格交渉の指針」といった官民あげての取組みにも拘らず、価格転嫁が未だ十分とはいえない状況にあることは皆さまも実感されていることと思います。政府が掲げる「成長と分配の好循環」は持続的な賃上げを大前提としており、働き手の7割を占める中小企業の収益状況が好循環実現のための重要なポイントであると捉えています。価格交渉が積極的に行われ、適切な価格転嫁による適正な価格設定がサプライチェーン全体に浸透・定着しつつあるかどうかについては、引き続き重大な関心をもって注視していかなければなりません。また、一過性ではない、持続的な賃上げの原資を確保していくためには「稼ぐ力」を高めていくことが欠かせません。急ピッチで進む人口減少下にあって企業が持続的成長を遂げていくには、人手不足が常態化する環境を想定し、生産性向上策を積極的に推進していく必要があります。DX化を通じた業務プロセスの見直しや省力化に向けたデジタル投資はもちろんのこと、総合的な処遇改善や人材育成を含めた「人への投資」を推し進め、働き手のエンゲージメントを高めていくことは企業の生産性向上のみならず、今いる従業員の流出抑制と新たな人材獲得といった効果を生み出すことにもつながるものと考えます。

秋田県経営者協会といたしましては、これからも会員の皆さまと研究・研鑽を重ねながら意見交換を積極的に行っていくことで、会員企業のますますの発展と地域・経済の活性化に貢献して参りたいと考えております。今後とも当協会の取組みに対しまして、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本日の議案に「任期満了に伴う役員等の選任」がありますが、本総会をもって私、会長を退任させていただきたいと存じます。平成30年から会長を務めさせていただきましたが、この間コロナという未曾有の事態に遭遇し、また働き方改革、賃上げ、労働力不足への対応等、経営者の取り巻く環境は年々厳しさを増すものでありました。

こうした中、在任中の6年間を振り返ると会員の皆様にかほどお役に立てたか、自らの非力に恥じ入るばかりです。会員の皆様には大変お世話になり、まことに感謝に堪えません。心よりお礼を申しあげる次第です。誠にありがとうございました。



・平成30年6月就任から6年間に亘り、ご尽力いただきました。ありがとうございました。



秋経協新役員は次のとおりです。

(敬称:略)

- 顧問 新開 卓 (元(一社)秋田県経営者協会会長)
- // 湊屋 隆夫 (前(一社)秋田県経営者協会会長)
- 会長 新谷 明弘 (㈱秋田銀行 頭取) ・秋田支部長
- 副会長 齋藤 善一 (羽後交通㈱ 取締役社長) ・横手支部長
- // 山脇 精悦 (㈱タイセイ 代表取締役) ・北鹿支部長
- // 佐藤 肇治 (㈱能代資源 代表取締役) ・能代支部長
- // 須田 哲生 (由利工業㈱ 代表取締役) ・由利支部長
- // 寺崎 芳典 (東北電力㈱秋田支店執行役員秋田支店長)

- 監査 堀井 啓一 (秋田県信用保証協会 会長)
- // 佐々木利幸 (㈱秋田グランドリース 代表取締役社長)

新谷明弘 新会長

専務理事 小野 秀人 ((一社)秋田県経営者協会)

理事

北鹿支部
進藤 進(再任)

由利支部
菊地 聖一(再任) 今野 智彦(新任)

能代支部
佐々木久則(再任)

仙北支部
佐藤 利昭(再任)・仙北支部長

秋田支部
西宮 公平(再任) 渡邊 綱平(再任)

湯沢・雄勝支部
鈴木達夫(再任)・湯沢・雄勝支部長

幹事 39名

北鹿支部 6名

塚本 徹 川井 祐介 中田 直文 赤坂 栄紀 三浦 知則 戸田 直人

能代支部 4名

福田 幸一 佐渡 雅樹 與語 将太 山田 倫

秋田支部 15名

森田 良平 辻 良之 赤川 靖宏 小松 忠彦 佐川 博之 平川 順一
石塚 真人 大柳 康司 立田 聡 本多 一義 中島 信勝 伊藤 新
高橋 泰寛 梅田 智弥 西中 啓二

由利支部 6名

中澤 和臣 猪股 春夫 伊藤 傳一 斎藤 雅人 佐藤幸司 三浦 俊之

仙北支部 3名

山崎 斎 高柳 智史 佐々木 卓

横手支部 3名

佐々木義幸 林 真章 深澤 禎彦

湯沢・雄勝支部 2名

山下 知之 小西 暁

◎ 任期は令和8年6月定時総会終了時までとなります。



定時総会記念講演

講演は、秋田労働局長 山本博之氏より
「労働市場から見た秋田県の現在と将来」をテーマに
講演いただきました。

講師プロフィール

山本 博之 55歳 広島県出身 東京大学法学部卒

平成3年4月 労働省入省

令和3年1月 中央労働委員会事務局審査課審査情報分析官

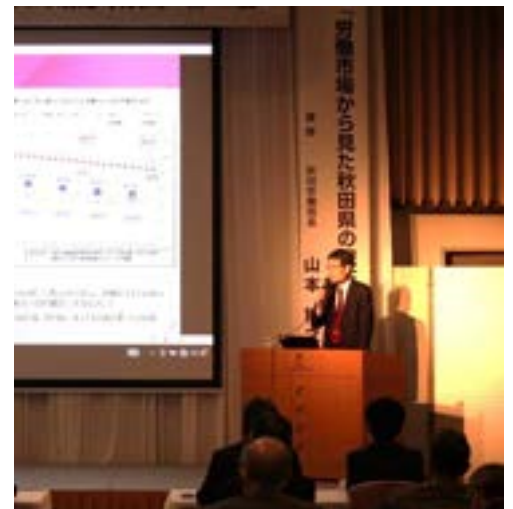
令和3年6月 中央労働委員会事務局総務課長

令和5年7月 秋田労働局長



講演のポイント

- 1 秋田県の雇用情勢
 - ・労働力人口の現状
 - ・秋田県の雇用情勢
- 2 秋田県の人手不足解消対策
 - ・新卒者の就職状況と対策
 - ・高齢者雇用の状況と対策
 - ・女性活躍の状況と対策
- 3 今後の見通し
 - ・将来推計人口
 - ・労働力需給推計



・講演は、秋田県が抱えている労働力に関する様々な現状を項目ごとにグラフに示しながら、その問題点のポイントを解説し、次に人手不足解消対策を新卒者、高齢者及び女性活躍に分けて具体的に示しながらその取り組みを講演いただいた。

「全国的に人口減少は避けられない中で、秋田県でも人口減少は不可避であり、労働力自体も一定程度の減少は避けられず、これまで通りの労働力確保は困難となる。その結果、採用が困難な状態が常態化、賃金その他魅力ある労働条件を提示しなければ採用は不可能になり、労働力はこれまで以上に貴重なものとなる。

貴重な労働力を生かすため、業務全体の見直し、効率化が不可欠であり、IT化、省力化を実施していく必要がある。併せて従業員の賃金形態の見直しなど働き方全体の見直しも必要となっている。

また、「魅力ある企業」＝労働者から選ばれる企業への取り組みを発信していく必要がある。「働き方改革は」業務全体の見直しの契機だった。各企業には今後も継続的な取り組みを期待したい。」と結んだ。



懇親会



齋藤副会長の乾杯のご挨拶



寺崎副会長中締めのご挨拶